

視 察 報 告 書

報告者氏名 野村 誠

1 会派名
公明党

2 参加者
野村 誠

3 期 日
令和6年5月23日（木）～5月23日（木）

4 視察地及び調査事項

（1）東京都八王子市（午前）

社会福祉法人多摩養育園光明第4こども園

①医療ケア児の受入れについて

（2）東京都八王子市（午後）

①乳幼児すくすくガイドラインについて

②保・幼・小連携の日実施要項と効果について

5 所感等

（1）午前は八王子市の社会福祉法人多摩養育園光明第4こども園を訪問し、理事長より、社会福祉法人多摩養育園について、光明第4こども園の施設や教育当方針についての説明があり、その後、医療ケア児の受入れ状況について、担当の先生より詳細な説明があった。当該こども園では、3年前より医療ケア児の受入れを2名からはじめた。最初は、酸素ボンベが必要な児童に対してどのように具体的に配慮すれば良いのか不安な要素がたくさんあったなか、不安な要素について、担当者、保護者を交え面接からはじまり、何度も意見交換、勉強を重ねるなかでどのような援

助が必要なのかを学び、少しずつ不安が解消されたのこと。また医療児、一般の園児、保育士がお互いに協力し、助けあっており、医療ケア児がみんなと一緒に元気に遊んでいる姿が印象的であった。集団生活をともに経験することで心身の成長を促す効果があることを学んだ。災害時の予備の酸素ボンベの確保など課題もある。給食の時間は一人一人の園児が自分で給食を好きな量だけよそって準備し、食後は自分で食器を片付ける教育が徹底されていた。園庭も高台にある広い屋上園庭で、裏山に遊具から登っていく仕組みで自然とふれあいながら成長できる環境が整備されていた。

(2) 視察午後は、

午後は八王子市役所にて、乳幼児すくすくガイドラインについて、保・幼・小連携の日実施要項と効果について、八王子市教育委員会の職員と子ども家庭部子どもしあわせ課の職員より、説明を受けた。今回の調査目的は、令和元年の文部科学省の実態調査の結果、6割の市町村で幼小接続を見通した教育課程の編成・実施が行なわれていないなか、流山市においても13年で90園もの民営保育園が増えた実態のなかで、接続における課題、保育園、幼稚園、学校教育の管轄が分かれていることなど課題があることから、八王子市の計画、連携の仕組みについてご教示いただいた。

●事前質問に対する回答

質問1 一小学校小学校の数と幼児施設数及び基本情報については

●回答—69校+1校（いずみの森小中一貫校あわせて70校、1学年の人数が3800人、幼稚園が25園、子ども園22園、認可保育園等合わせて合計216施設ある。

●質問—そのほとんどが民間事業者による運営であるのにも係わらずどのように足並みを揃えているのか。

●回答—八王子市では令和3年に、乳幼児期の教育・保育の質に関する指針を纏めた「乳幼児すくすくてくてくガイドライン」を作成し、全校に配付して、

①保・幼・小子育て連絡協議会を開催

②保・幼・小子育て連絡協議会ブロック全体会の開催

③保・幼・小の日の実施

④就学支援シートを保護者に配付、研修会、グループディスカッションの開催を実施するなどして幼児教育、保育の理想を引き継ぎ、小学校生活に円滑になじめるように様々な角度から連携を図った。課題としては、施設の課題が多く、きめ細やかな対応が困難な点、就学支援シートを配付してもシートの提出がない家庭があり、そのような個別問題を抱えている家庭に対してどのように相談機関等に繋げていくかが課題であることがわかった。

幼児教育・保育施設として共有すべき事項については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と3つの育みたい資質、能力」の動画はとても参考になった。今回の視察を通じて、本市に足らない架け橋教育の充実、保・幼・小連携の強化など多くの学ぶべきことがあり、本市においてもよく研究し、実情に応じて取り入れていくべきと感じた。

以上